

地域在住高齢者における共食と食品摂取多様性との関連：横断研究に関する研究のお知らせ

神奈川県立保健福祉大学（ヘルスイノベーション研究科 or イノベーション政策研究センターどちらか選択）では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間	倫理審査承認日～2027年3月31日
研究課題	地域在住高齢者における共食と食品摂取多様性との関連：横断研究
研究の概要	<p>目的及び意義：</p> <p>高齢者の健康づくりにおいて、バランスのよい食生活は極めて重要な役割を果たす。先行研究において、食品摂取多様性は高次生活機能と関連することが報告されている。また、多様な食品摂取は筋量および身体機能の減少を抑制することが報告されている。</p> <p>近年、高齢期に栄養状態を良好に保つ方法として、他者と食事を楽しむ共食が注目されている。独居高齢者においては、共食の機会がない者は、共食をしている者よりも食品摂取多様性が低いことが報告されている。このような傾向は独居者のみならず、様々な属性においてもみられると考えられるが、詳細に検討した研究は見当たらない。</p> <p>そこで本研究では、横浜市栄区で実施した大規模調査のデータを用いて、性、年齢、教育年数などの属性ごとに共食の有無と食品摂取多様性との関連を検討する。本研究により、共食の有無と食品摂取多様性との関連がみられる集団を特定することができることから、将来的な集団健康づくり戦略構築に資する知見を得ることができる。</p> <p>対象：</p> <p>本研究では、東京都健康長寿医療センター研究所と栄区役所が実施した「横浜市栄区民の健康長寿に向けた実態調査」のデータを用いて二次分析を行う。この調査では、2019年に住民基本台帳からの55-64歳、65-74歳、75-84歳と性別による層化無作為抽出を行い、抽出された栄区内に居住する55歳-84歳までの男女12,600名を対象に郵送調査を実施した。</p> <p>本研究の対象者は、調査に回答した55歳-84歳の栄区民9,204名である。</p> <p>方法：</p> <p>共食の有無と食品摂取の多様性を検討するため、線形回帰モデルを実施する。食品摂取の多様性尺度のスコアを目的変数とし、共食の有無を説明変数、性、年齢、教育年数などの社会人口学的変数を調整変数としてモデルに投入する。</p> <p>また、これらの関連が属性によって異なるかを検討するため、性別や年齢別の層別解析や交互作用項を統計モデルに加えて検討する。</p>
研究組織	研究代表者（研究責任者） 根本裕太 所属：ヘルスイノベーション研究科 職位：講師 役割：研究実施の統括

	<p>研究分担者 永田幸子 所属：ヘルスイノベーション研究科 職位：修士課程 役割：統計解析、研究成果の発表</p> <p>研究分担者 佐藤明音 所属：ヘルスイノベーション研究科 職位：修士課程 役割：統計解析、研究成果の発表</p>
個人情報の取扱い	申請者が受け取るデータは、匿名化された状態であるため、個人情報は取り扱わない。
その他	

対象となる方で、研究の内容や、ご自身の検査結果などの研究への使用に関して、より詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

〔問い合わせ先〕

研究代表者： ヘルスイノベーション研究科 講師 根本裕太
TEL：044-589-8100（代表）